



榎原チャレンジ! 一歩へ

下郷町立榎原小学校
学校だより No.20
令和2年 7月20日
文責:校長 酒井 健

◇授業参観、全体会、学級懇談会・・・ありがとうございました。

先週16日に開催しました授業参観、全体会、そして学級懇談会には、ご多用の中、たくさんの保護者の皆様方にお集まりいただき、ありがとうございました。全体会では、PTA会長のご挨拶に続き感染予防についての学校としての取組をご説明いたしました。

今後も、保護者の皆様方からのご要望、ご意見、ご質問等、何かありましたら、学校へお知らせください。皆様と協力しながら、子どもたちの安全・安心を守っていきたいと考えております。



校長のひとりごと

先日、ある雑誌を眺めていたら、興味深い内容のものが載っていました。佐賀県立宇宙科学館館長 許斐 修輔さんの「ものこわしのすすめ」というものです。

私たちは多くの便利な「もの」に囲まれて、快適な生活を送っています。ボタンを押せば、テレビやエアコンを利用することができます。多くの家庭では、蛇口をひねれば冷水だけでなく適度な温度のお湯が出てきます。このような恵まれた生活は先人のアイデアや工夫、努力の結果として実現されたものです。しかしながら皮肉なことに、この恵まれた状況が若い世代の理科離れの大きな原因の一つになっているのではないかと考えています。

(中 略)

科学館で開催する「ものこわし教室」では壊れたコンパクトカメラを材料として使ってきましたが、身の回りにあるものは何でも「ものこわし」の材料になり得ます。「ものこわし」の材料は、壊れて使えなくなった「もの」。ゴミとして捨ててしまう前に中がどうなっているのかを覗く面白さを体験することが「もの」への関心につながります。壊れたものを修理するには高いハードルが立ちふさがります。しかし、単なる分解なら気楽です。コンパクトカメラはマイクロドライバーでほとんど分解できます。「ものこわし」の結果、捨てられる運命にあったカメラの中に、まだまだ使える部品があるということも驚きです。コンパクトカメラの中には2～3個のモーターが使われています。しかし、モーターが壊れているケースはほとんどありません。これらを取り出して電池につなげばモーターが回転するのが分かります。もちろんレンズはそのまま使うことができます。「ものこわし」の結果得られたこれらの部品は子どもたちの大事な宝物。ゴミとして捨てられる運命のものから「子どもたちの宝物」を取り出すことができるということも素晴らしいことではありませんか？

(中 略)

最先端の科学、科学技術も種々の工夫、アイデアを論理的に積み重ねることで実現されています。中味を少しでも理解しようとする「ものこわし」は、最先端の科学、科学技術へ続く道ではないかと思えます。

自分を振り返ると、子どもの頃、時計、ラジオなど、分解して遊んだという経験があります。確かに、分解していて驚きや感動があったことを思い出しました。結局、元に戻すことはできず捨ててしまったように思います。そういえば、つい最近では、ラミネーターを分解しました。修理のつもりが廃棄になってしまい、悔しい思いをしましたが、逆にラミネーターの構造を知ることができました。

ところで、最近の子どもたちは、この「ものこわし」を経験しているのでしょうか？我々大人がどこかでストップをかけている・・・ということはないのでしょうか。分解していく中で、様々な発見、驚き、感動を味わい、ものへの興味・関心が増大していく・・・そんな気がいたします。

